



The 8th General Conference  
of EASTICA & Seminar  
2007. 10. Tokyo

## EASTICA第8回総会およびセミナー開催にあたって

菊池光興

EASTICA副議長・ICA副会長

独立行政法人国立公文書館館長



皆さん、おはようございます。

本日、東アジア諸国から多数の参加者を得て、ここ東京で EASTICA 第8回総会及びセミナーを開催できますことを、日本の国立公文書館長として大変光栄に存じます。また世界各国からの皆様のご来日、日本の関係者の多くのご参加を心から歓迎をいたします。

東京でこの EASTICA の会合が開かれますのは、第3回総会以来、ちょうど10年ぶりとなります。随分久しぶりに日本がホストとなり、この EASTICA の会合を開くことができました。これまでの間、各国で開催されました EASTICA の会合において、毎回我々日本からの参加者が各国のみなさん大変お世話になり、歓迎していただいたことを深く感謝いたします。今回は、私どもがホスト役としてできるだけの歓迎をいたします。どうぞ、美しい良い季節ですから、日本の秋をお楽しみいただきたい。お願いいたします。

ところで、日本には、十年一昔という言い方があります。この10年の間に、アーカイブスをめぐる環境は劇的に変化しました。中でも、インターネットの急速な普及拡大と、それに伴う世界的な電子政府化の進展は、アーカイブス機関及びアーキビストの機能に大きな変化をもたらしました。

東アジアの国々とその人々は、いずれも1,000年を超える長い歴史を持ち、各国のアーカイブスはその歴史をつむぐ文書遺産を保存し、公開する責務を果たしてきました。電子記録はわずか数十年という、我々の国の歴史から見ればごく短い期間に生み出されているながら、その情報量は紙と筆によって長い歴史を通じ生み出された伝統的な記録の情報量をはるかにしのぐ、爆発的な規模を持っています。

膨大で、しかも物質的な存在の確認ができない電子記録の中から、何をどのように評価・選別し

て残すか。そして、その選別した記録をいかにして1,000年後の子孫に伝えるか。これらの課題に取り組むためには、紙に記録された歴史的な文書遺産の保存や公開の方法とは全く異なる新しい戦略と技術を開発する必要があります。

また、インターネットは今や多くの人々にとって必要不可欠なツールとなっています。この新しい技術をアーカイブス運営においていかに活用していくかも大きな課題です。書架に並ぶ厚い所蔵目録をめくり資料を探す方法にかわって、今日ではインターネットを通じた所蔵資料データベースによる検索が、アーカイブス資料へのアクセスの最も一般的な手段となりつつあります。目録情報のみならず、資料そのものの画像を自宅で閲覧できるデジタルアーカイブも、世界各国で多数のプロジェクトが進行しています。

欧米文化と異なり、多様な文字や資料形態を持つ東アジア諸国のアーカイブスが、新しい情報通信技術とインターネットの活用を通じて、データベースやデジタルアーカイブの分野でもより一層協力を深め、アジアから世界へとその成果を発信していくことには大きな意味があると考えます。

私は現在、初の選挙によって選ばれました ICA の副会長として、ここ数年間、ICA 円卓会議 (CITRA) の議長を務める栄誉にあずかっています。その過程で、私は世界じゅうのどの地域よりもダイナミックに発展をしているこの EASTICA 地域に対し、国際的なアーカイブス社会から、経済発展に劣らずアーカイブス分野の力強い貢献が期待されていることを痛感いたしました。今回の EASTICA の会合が、そのような世界中からこの地域の我々に向けられる期待に応える！成果を生み出すことを望みます。

このような期待を込めて、今回の EASTICA セミナーは「電子政府化の進展と電子記録管理」をテーマといたしました。多様な経験を分かち合えるよう配慮して、米国国立公文書館記録管理局のケネス・ティボドー博士、筑波大学大学院の杉本重雄教授を基調講演者としてお招きして、電子記録の最新の成果をお聞きします。

また、「デジタル時代のアーカイブ～アジアからの発信～」と題した公開シンポジウムを開催し、マレーシア国立公文書館のシャイディン・シャフィー氏、東京大学史料編纂所の保立道久教授をお招きするほか、ティボドー博士、中国と韓国の代表の方々にも加わっていただき、ご参加の皆さんと議論の場を設けます。必ずや実り多き情報交換が行われるものと確信し、皆様からの積極的な参加をお願いいたします。

最後になりましたが、このセミナー及びシンポジウムへの出席を快諾いただきました講演者及びパネリストの方々に厚く御礼申し上げますとともに、本会合がこれからの東アジアの、そして世界の豊かなアーカイブス文化の発展に寄与することを念じまして、私のご挨拶といたします。